



## 太陽系黑板

資料登録番号  
AS-2007-9

10年ほど前に、英国オックスフォード大学の科学史博物館を訪れました。そのおり「Bye-bye Blackboard」(さよなら黒板)という展覧会をやっていました。そのときとった写真がこれです。アインシュタインが板書をしている写真が看板になっていました。そしてこの博物館は、1931年の講義で書かれたこの黒板をそのまま保存しており、同館の主要資料なのだそうです。ほかにも世界の著名人が書きのこした黒板多数を見学できる展覧会でした。



黒板の歴史は意外と浅く、19世紀の初頭に登場したようです(一説では1801年に発明)。日本には明治時代にアメリカから導入されたそうですが、にたようなものは江戸時代の寺子屋でも使っていたとのこと。

第二次大戦後、日本の学校では広く黒板が使われるようになりました。現在でも主流です。そして、黒板にはいろいろなバリエーションが生まれていきます。上下二分割、移動式などからはじまり、球面黒板なども作られました。そして、黒板にあらかじめ下図が描かれているものも作られました。「天気図黒板」や「世界地図黒板」、そして、ここで紹介する「太陽系黒板」もその一つです。

太陽系黒板をどうつかうのか? というところ、正直あんまり使われた形跡はないのですが、季節の星座の移り変わりや惑星の運動を説明するのに使えます。



たとえば、火星は毎日、星座の星に対して、西から東に移動していきます。太陽をめぐる公転運動のためです。ところが、ある時期には、この移動が反対方向になります。火星はもくもくと移動しているのですが、地球がそれを追い抜くからです。これを俯瞰して説明するときには太陽系黒板は便利です。

このような専用の黒板はパワーポイントや電子黒板にとってかわられようとしています。でも、教えたいという思いが伝わる一品ですね。 **渡部 義弥(科学館学芸員)**